

第5回 鶴岡市文化会館管理運営実施計画アドバイザー会議 会議録（概要）

日時：平成27年10月29日（木）

17時00分～18時50分

場所：鶴岡アートフォーラム 大会議室

〔協議事項〕	(1) 管理運営実施計画(案)について
〔出席者〕	総合アドバイザー：草加叔也氏 地元アドバイザー：穂積恒雄氏、梅津芳春氏、柿崎泰裕氏 伊藤裕美子氏、大久保紀子氏 教育長 教育部長 社会教育課長 文化主幹 芸術文化主査 芸術文化係長 芸術文化係専門員 芸術文化係主事
〔公開・非公開の別〕	公開
〔傍聴者〕	1名

1 開会（文化主幹）

2 協議

(1) 管理運営実施計画(案)について

芸術文化係長・芸術文化係専門員：**資料により説明(1ページから31ページまで)**

総合アドバイザー：ありがとうございました。31ページと大変広い範囲ですけど、ただいまご説明をいただきました内容について、ご質問やご意見を頂戴したいと思います。

地元アドバイザー：整備の基本理念として「支える、育てる、高める。未来に繋ぐ芸術文化への拠点」を掲げ、管理運営の基本方針の中でも「育成の拠点」と書いてあります。私はこの未来を担う「育成」について、もう少し力を入れたら良いのではないかと考えております。

事業計画にある6つの事業の中に、2つ目に育成事業があります。例えば「次世代の育成事業」のところに、芸術文化への関心を高める鑑賞事業を実施しますと書いてありますが、ただこれを掲げるだけでいいのかなと思いました。

「クリエイティブ、創造性を養うこと」、「鑑賞」、「地域伝統芸能」、この3つの目線は必要な気がします。そういうことを考えていくと、子どもたちにそれが出来る芸術環境を作ってあげる必要があります。具体的なものも当然ですが、その環境・土台作りがないとそれは出来ません。

そのために、大変難しくそして高いハードルではあるのですが、学校教育と社会教育が、同じ目線で一貫した芸術に関する育成プログラムを構築していただけると良いなと思います。今みたいな財政難であればあるほど、そういうことをやることに意義があるのではないかと思います。

あくまでも育成というと、大人が目線ですが、もっと子どもたち自身の目線で企画することによって、大人も気が付くことがあるはずですから、そういうような環境も作っていただけたら良いと思います。

子どもたちを育てていくということは時間が掛かりますが、このようなことをやっていくのが一番早道じゃないかなと思います。

総合アドバイザー：ありがとうございました。子どもの育成というのは大変重要な視点ですので、これからこの鶴岡という街の記憶を作っていく子どもたちに、どちらかという受け身な感じではなく、もう少し能動的な表現があっても良いのではないかということだと思いますので、書き振りとしてそのあたりを工夫していただければと思います。

地元アドバイザー：関連でいいでしょうか。音楽の分野でいえば、鶴岡は学校教育でも育成は結構やっている部分がありますし、旧文化会館においても、各団体が自分たちで色々な育成をやっていました。

1つの視点として、今回の事業計画を見ると、全部新しい事業を始めるように見えてしましますが、そうではなくて、新しいホールと学校教育・社会教育が連携する場所を、きちんと設定していただきながら、学校教育や各団体が自主的にやってきたものに対しては応援する、このホールでしか出来ないことは新規でやるといった具体的な棲み分けも必要と思いました。

学校教育と社会教育の繋がりをもっと良くするというのは大賛成なのですが、一同に介してそこで何か話をするというのはなかなか無いことなので、新しいホールが出来ることによって、そのへんをどう狙っていくかということも必要かなと思っております。

総合アドバイザー：ありがとうございます。この中の事例の取り組み等で書かれている中にも、今のお話にあったように、もう踏み込んでいることもあるし、それから物によってはまだ手つかずのところもある。それを更に、手を付けているところはさらに伸ばす、それから新しい分野にも広げていくような表現がどこかにあっても良いかもしれません。

それから、鑑賞事業のように受けるだけという表現よりも、もっと能動的にコミットできるような表現というのも少し入ってもいいのかなという感じがしました。そのへんを少し工夫していただければと思います。

地元アドバイザー：4ページの文化会館の事業の方針で、自主事業と貸館事業の2つに分類していますが、この自主事業というものは非常に難しいものが相当多く含まれていると思います。

子どもたちが地域への愛着を持ちながら、誇りを持ってこの地元を語れるというような、そういった事業にこれから取り組むことが出来れば良いのではないかと思いますので、情報連携を図りながら、育成事業というものを組み立てていく必要があると思います。ですから、子どもたちの育成については、これから肉付けをしていくということが大事だと思いますので、ひとつよろしくお願いをしたいと思います。

それから、15ページに平面図があるのですが、託児室はどこに設けることになるのですか。

芸術文化係専門員：事務室と会議室の間にある部屋が託児室になります。なお、他市のホールの場合、有料で貸し出しを行っているようでしたので、類似施設の事例も参考としながら、料金は検討していきたいと思います。

総合アドバイザー：今、室名が入ってないので、あったほうが分かりやすいと思います。

芸術文化係専門員：舞台の左側にあるピアノ庫なども含めて、書ける範囲で少し直したいと思います。

総合アドバイザー：同じ 15 ページにアスタリスクで「市民活動促進のため、エントランスホール等の一部貸し出しについても今後検討していく」とありますが、以前この会議でもお話ししましたように、利用料金が定まっていないから貸せないということではなくて、市民活動を活性化していくために、市民に利用していただけるようなことがあれば、貸せるようなシステムも考えていく必要があると思います。極端な話、場合によってはお祭りのようなことや、フリーマーケットみたいなことを駐車場でやるということもあって良いと思います。

私のほうから、気が付いた点で、もしご考慮にしていただけるようであればということをして、1,2 点申し上げたいと思います。

1 つは 14 ページ。施設運営の基本方針に、先ほど言った色々なところを貸せるということも含めて、もう少しフレキシブルな運用だとか、対応をしていただけるようになると良いと思いますので、そういう表現もどこかに加えていただければと思いました。

それから、22 ページ。この表を見ていて、施設全体の管理運営経費の中で、市の文化投資の割合が本当はもう少し大きいと思うので、実態に近づける意味で破線の位置をもう少し左側にしてはどうかと思いました。

それから、27 ページ。指定管理者制度導入スケジュールの表がありますが、どこかに「竣工」というのがあって「開館」があると思います。また、その間が施設への「習熟訓練」になるため、そういう期間も必要だということが分かるように書いていただいたほうが良いかと思いました。

それから、31 ページ。外部委託に関する業務と書かれると、①専門家、②舞台技術、③施設管理というのは全部外部委託というように見えてしまいますが、そうではない場合も想定されると思うので、外部委託なのか専門家の登用なのか、少し配慮をしていただいたほうが良いと思いました。また、②舞台技術の「舞台機構」の 2 行目「舞台空間における大道具などを企画、制作」と書いてあるのですが、舞台機構の方たちが大道具などを企画制作することとは一般にはあまり無く、立ち合い業務が中心になってくると思うので、「舞台空間のトータルな安全管理」という書き方のほうが適切かなと思いました。それから、③施設管理の「保守、メンテナンス」の 1 行目。舞台機構や機械と書いてありますが、これは舞台機構だけではないので舞台設備のほうが適切だと思います。

私の方からは以上ですが、他にも皆さんのほうで何かお気づきの点があれば。

地元アドバイザー：私は大きな組織には所属していませんが、文化会館には強く夢を持っていて、市民として自分たちの文化会館だと思えるような企画に対する要望といったものは、どういうところで出せるのかなと思っているのですが。

芸術文化係長：こちらのほうとしましては、例えばですが 12 ページに開館記念公演ということで、想定される取り組みの中に、トップアーティストの公演、その次に市民参加による公演というものも上げております。やはり、有名な方を呼んで鑑賞事業だけをやればいいのだという認識ではなくて、今アドバイザーが言われたように、市民の方々が企画したり、市民参加できる内容の公演のものも開館記念事業の 1 つとして捉えていくことで、新しい文化会館の自主事業の大きな柱の 1 つになっていくのかなと思っております。

こちらのほうの制度設計については、更に検討が必要ではあるのですが、応募型で募集し、内容を見た上で、この内容なら文化会館の公演として相応しいのではないかとといったものには、一定程度運営側が支援をした上で実施するといった事例もありますので、28 年度以降、もう少し掘り下げて検討していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

地元アドバイザー：トップアーティストの公演などは、何年も前から企画しないといけないので、市民から声を吸い上げるというのは難しいと思うのですが、市民参加による公演や、鶴岡ゆかりの出演者による公演あたりも、出来ればオーディションまでは無理でも、プレゼンテーションみたいな形でやっていただけたほうが、みんなのものになるのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

総合アドバイザー：今 14 ページを見てみると、施設運営の「(1)施設運営の基本方針」の 1 つ目の「分かりやすい利用規則」の中に、「開館後に利用者やスタッフの声を規則に反映させることも検討していきます。」とあるので、一般市民の声を聞き入れるフェーズも作っていかうということは少し書かれていると思ひます。他にも何か、今おっしゃったような、施設が市民の声を受け入れられる窓口、フェーズみたいなものがもしあるのであれば、そういうところも意識をしていただけたほうが良いと思ひました。

他にどうでしょうか。まだ時間があるようですが、先に進んでよろしいでしょうか。先に行つてまたお気づきの点があつたら戻つてもいいと思ひますので、それでは次の 32 ページから最後までの部分について、事務局より説明をお願いします。

芸術文化係長・芸術文化係専門員：**資料により説明(32 ページから 45 ページまで)**

総合アドバイザー：今、32 ページから最後までご説明をいただきましたので、同じようにご質問、あるいはご意見等ありましたら、お伺ひをしたいと思います。

地元アドバイザー：演劇とかミュージカルの公演をさせてもらう時に、いつも私たちが管理の

方を困らせてしまうのが、煙を焚くことです。この間も公演の時に、照明効果を上げたいから煙を焚きたいというプロの方と、一方施設の管理の方からは、煙感知機を切らないで欲しいと言われました。新文化会館でも、多分大きなプロの団体が来ると、煙を焚くということはあると思うので、今から考えておいていただいたほうがいいかなと思います。

総合アドバイザー：実際に公演をやる際に、そういう支障があるケースも考えられるということですね。スモークにも色々な種類がありますが、どうしても大量に使用すると影響があるのは確かです。新しい施設だと、炎感知器といった設備も付いているかもしれないので、そういうものが発報信号を出すと火報ベルが鳴ったりすることがあるので、慎重にやらなければいけません。施設や消防の許可が必要ですが、舞台では演出上タバコを吸ったりマグネシウムを燃やしたりということは良くあることですので、そういう演出に支障が無いかということ、設計者や施工者と調整をしていただいて工事を進めていただければと思います。

同様に、非常口誘導灯を消したいというケースも演出の中ではありますので、それも消防と関わりますが、ぜひそういう配慮もしていただければと思います。逆に言うと、設計者や施工者の方も知らない情報が多いかもしれませんので、こういった実際に舞台を使ってご苦労されたことなどは、ぜひ伝えていただければと思います。

それから、私のほうから、書く必要が無いことも含まれているかも知れませんが、気になったところをお話させていただきます。

33 ページの「市民サポーター」ですが、市民から客席側からだけではなくて、舞台側あるいは管理する側から施設を見ていただくのには、こういう市民サポーターが大変重要であるため、事業としては大賛成ですが、運営していくには結構大変なことが少なくありません。両者が WIN-WIN の関係で出来るか、どういうシステムでやっていくかということ、将来も踏まえて考えていただければ良いと思います。将来的には指定管理者がやらなければいけないことになってくると思うので、指定管理者のご理解も得ていかないと出来ないことだと思います。また、33 ページの「(3) 市民サポーターによる研修の実施」といったことは、市が支援して実施するということもあるかもしれませんので、役割分担も踏まえて、市民サポーターをどう維持していくのかということを考えていただければと思います。

それから 34 ページの「友の会」の設置。市民サポーターの設置と友の会の設置は、かなり近似的な要素になることもありますので、一体的に整備をしていくということもあるかもしれません。ホールで事業をやる時に、その情報が早く得られるとか、早く買えるとか、安く観られるといった何らかのメリットが無いと、友の会は成立しません。下にいくつかの事例が載っておりますが、どれくらいの事業数をやって、それにメリットはどういうものが与えられているかをもう少し調べていただいて、友の会が維持できる事業の考え方を整理していただき、将来的には指定管理者へこういうことをやって欲しいということをやうまく伝えていただければと思います。

それと 36 ページの「収入の構成」の事業収入のところに書いてある、国や県、助成団体からの助成金、補助金は、どちらかというと、その他収入に入れたほうが妥当ではないかと思っておりますので、もう一度精査をしていただければと思います。

それから、最後に 38 ページの「開館前の広報活動の計画」の表の中に「市の広報・ホームページ等による告知」と「新文化会館ホームページ立上げ」という 2 つがあるのですが、それが「開館後の広報活動の計画」の表では消えているので、新たに開館後にはこういうようなことをやっていきます維持していきますということを書くなど、工夫していただければと思います。

社会教育課長：先ほどお話がありました、誘導灯の関係で少し確認をさせてください。誘導灯は避難設備のひとつとして常時点灯が原則ですが、用途や使用時間によって消灯するものや、自動火災報知設備と連動するものが、最近のものとしてはあるようでした。消防への確認は必要とのことですが、舞台の公演時間の間だけ消灯ができるような誘導灯の導入について、一考の余地があるということでしたので、実際のところはいかがでしょうか。

総合アドバイザー：実際には、完全暗転を求める演出家は多くなってきています。本来は誘導灯は避難を担保するものなので、本当は消すべきでは無いとは思いますが、完全暗転が欲しいという演出家の要望があって、消すということが今、日本の消防では許されるようになってきています。

最近では、舞台照明卓に非常口誘導灯との連動・非連動というスイッチが付いていて、舞台照明卓で客電を消す時に連動させて消す、それから舞台照明を消しても非連動で誘導灯はそのまま残すという選択ができるようなシステムが、今の舞台照明卓には付いていることが多いです。ただしこれは、施設を作る時に消させて欲しいという要請をして、強制回路で復帰する状態を作っておかないといけません。

ちなみに、足元灯を消すということも無いわけではないのですが、これは危険を伴うので、ハードルが高くて消させてくれないケースが多いです。今回作るホールは、特に客席の通路が複雑な格好をしているようですので、そういうことも踏まえて安全管理は考えていただいたほうが良いと思います。

地元アドバイザー：今回、多分カフェが施設の中に入るとは思いますが、どういう会社が入るかも分からない状況ですが、危機管理体制・避難誘導體制の中に管轄外の職員がそこに入ってくるわけですので、一応管理の部分で考慮すべきだと思います。

総合アドバイザー：行政的な判断があるので簡単に言えることではないのですが、最近では、劇場・ホールにとって、カフェは目的外施設とは考えずに目的施設の一部だという捉え方もあります。そのへんをどう決めていくかということと、指定管理の範疇に入れていくかということもポイントになってくると思います。ただ、場合によっては、指定管理の足かせになることもあるので、慎重に考えながら、効果的に運用できるようにしてあげないといけないと思います。

地元アドバイザー：あと、安全管理・危機管理と直接関わるかは分からないのですが、ホール

の利用が無い場合でも、例えば閉館時間までドアを開けておいて、誰でも通れるようにすると思うのですが、特にこの地方は季節や雪とかによって、閉める時間が変わってくる時があると思うので、どの時点でドアを閉めるのかということを心配しております。

芸術文化係専門員：以前視察に行ったホールでも、メインのホールの利用が無い日は、閉館時間を少し早めている施設もありましたので、この件はこれから検討していきたいと思います。

総合アドバイザー：実際には、結構自由に奥のほうまで行ける施設ですから、こういう施設は、性悪説で管理し始めるとどうしようもないので、どちらかという性善説で管理しないといけません。そういう意味では、鶴岡市民の見識を育てる施設にもなっていくかもしれません。どういう管理をしていくのかは、これも将来的には指定管理者と一緒に、一所懸命考えていただければと思います。

地元アドバイザー：気になるのは、この館は通り抜けが出来るので、そうすると雨天時や、また特に夜間などは、女性の方はそこを通ったほうが安全なわけですから、通り抜けで使うことが考えられます。例えばアートフォーラムの場合は、濡れると湿気が入ってきて虫を呼んだりするので、傘を中に持って入れないのですが、文化会館は美術館では無いので、例えば傘を持って通り抜けていった場合、エントランスが水滴で濡れてしまうと思われました。ルールによっては、非常に融通が利かない館だとならないか心配をしています。

芸術文化係専門員：一応、中も通れますが、軒下も通れるような形になると思われれます。

地元アドバイザー：軒下を通ってくれば問題はないかもしれませんが、夜何時にどこのドアを閉めるかというのは、条例は条例であるわけですが、非常に悩むところだと思います。おそらく開館後は、想定内や想定外の色々なことが多分起こってくると思いますが、使い勝手がいいと皆さんがたくさん使ってくれるのだと思います。

先ほど、草加先生がおっしゃった駐車場を色々なところに開放するといったことも、駐車場は文化会館とアートフォーラムの間にあるため、やることになれば、お互いのにぎわい創出に繋がり、メリットになると考えられます。

総合アドバイザー：様々な自由な利用が出来たほうがいいのですが、どこかではそれを制約していかなければいけないので、あまり臆病にならないで、色々なことを試していただくというのが良いと思います。公共施設というのは、市民にどれだけ開放されているかというのが価値だと思いますので、多少壊れたり汚れたりしても、周囲がにぎわって人が集まってくれる施設になってくれれば良いと思います。ぜひ色々な人が関心を持って近づいてくれて、通ることによってポスターを見て、この音楽を聴いてみようかなと思ってくれることもあるかもしれません。まずは、これだけ特徴のある施設を作ろうとしているので、そういう意味で特徴があるということは、それだけでアドバンテージになると思います。

アートフォーラムも、綺麗な建物があるな、中で明かりが付いているなと思うと近づいてくれます。そして、ポスターを見て、なんかやっているなあ、見に行こうかなあと思ってくれます。そういった周辺の文化施設での連鎖が生まれるような施設になってくれれば良いなと思います。

地元アドバイザー：旧文化会館の時ですが、解体する直前の時期にいた館長さんと思われた方のサービスが凄く良くて、その方は公募で入った方だというお話を聞いたのですが、そうなのでしょうか。

芸術文化係専門員：旧文化会館ですが、平成10年度までは市長部局のほうで、館長も市の職員という形で運営をしておりましたが、平成11年度からは、補助執行機関として教育委員会事務局が事務を引き継ぎました。その後、指定管理者制度の導入に伴い、会館の管理や貸館の受付等を含めて、鶴岡市開発公社に委託を行っておりますので、館長さんのように見えた方については、開発公社で職員を募集し採用された方と思われます。なお、その方は、前の職場で接客業の実績がある方とお聞きしておりますので、そういった経験が来館者への対応に繋がっていたのではないかと思います。

地元アドバイザー：凄くサービスが良くて、びっくりするほど色々行き届いた面倒を見ていただきました。そのようなサービスをしていただけると、凄く使いやすかったです。

また、今、藤島の公民館や体育館のロビーで、中学生や高校生が結構楽しく交流しているみたいで、いいなあと思って見ているので、勝手な希望かもしれませんが、ぜひこの新文化会館も、なるべく中学生や高校生といった若い人たちが入ってきて、たまり場みたいな場所になってくれると凄くいいなあと思っています。

地元アドバイザー：資料に関しては綺麗にまとめていただいたので、特にありませんが、今後の文化会館といった時に、やはり全国に発信して、やはりよそから人が来て、美味しいものを食べ、美味しい酒を飲み、泊まっていただき、農産物を買っていただき、色々なことをしていかないと鶴岡市も生き延びていけないのではないかと思いますので、全国発信ということを強く望みます。

鶴岡は食文化だけではなく、音楽や合唱も根付いている土地柄だと思うので、それを利用しない手はないと思います。それを皆さんで盛り立てて発信していけたらいいなと熱望しておりますので、よろしく願いいたします。

総合アドバイザー：おっしゃっていただいたように、街のインフラを作るのは経済や産業だったりしますが、文化の裏付けのない経済や産業というのは有り得ないので、グローバル社会になればなるほど、鶴岡らしさを見せていくのは文化になると思います。

竣工はゴールではなくてスタートですので、それまで皆さんで支えていただき、この新文化会館が新たなまちづくりの象徴になるように、ぜひ皆さんで盛り立てていただければと思

います。

色々な意見を持っている人がいると思いますが、それも踏まえて関心を持つ人を 1 人でも増やしていただくということから、注目される施設になっていくと思います。暖かく見守っていただくことと、ぜひ応援をしていただきたいと思います。

最後に、その他について、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

3 その他

社会教育課長：今後のスケジュールについて説明。

4 閉会

教育長：あいさつ

文化主幹：以上をもちまして、第 5 回鶴岡市文化会館管理運営実施計画アドバイザー会議を終了します。ありがとうございました。

以上